

■開催概要

- シリーズ名称 : 2022 鈴鹿・近畿選手権シリーズ第3戦 鈴鹿サンデーロードレース
2022 JP250 4時間耐久ロードレース
- 主催 : ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット
- 会場 : 鈴鹿サーキットレーシングコース フルコース (2輪/5.821km)
- 参加台数 : 総参加台数/206台
インターJ-GP3.....10台 (内、NSF250R.....3台)
ナショナルJ-GP3.....16台 (内、NSF250R.....9台)
ナショナルST600.....49台
ナショナルST1000.....27台
インターST600.....13台
インターST1000.....19台
インターJSB1000.....36台
2022 JP250 4時間耐久ロードレース
インターJP250 4時間耐久ロードレース.....7台
ナショナルJP250 4時間耐久ロードレース.....29台
- 開催日 : 2022年5月14日(土)・15日(日)
- 天候/路面 : 曇り一時雨/ドライ(5月14日)
雨/ウェット(5月15日)

★次回レース予定

2022 鈴鹿・近畿選手権シリーズ第4戦 鈴鹿サンデーロードレース (FUN&RUN! 2-Wheels併催)

■開催日/2022年6月4日(土)

■会場/鈴鹿サーキット 東コース (2輪/2.243km)

■開催クラス/ CBR250R Dream Cupエキスパートクラス、CBR250RR Dream Cup

■主催/ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/



★レース写真は、バトルファクトリー様のHPで
ご購入いただけます。
<http://www.battle.co.jp/>



今シーズン初のフルコース大会として行われた第3戦。インター/ナショナル両クラスの混走によるJP250 4時間耐久レースではトップグループを何度もトラブルが襲う展開に

JP250 4時間耐久レースも開催され、 いつも以上に盛り上がった 第3戦フルコース大会。

今シーズンから「FUN & RUN! 2-Wheels」と併催されることになったCBR250R/CBR250RR Dream Cupを除くクラスが、シリーズ第3戦として5月14日(土)・15日(日)に2daysレース、今季初のフルコース大会として開催された。5月14日(土)には全クラスの公式予選、インター/ナショナルJ-GP3、ナショナルST600、ナショナルST1000の決勝レースが行われ、翌15日(日)は残るクラスの決勝レースとJP250 4時間耐久レースが開催された。

このJP250 4耐には合計36台が参戦。Rider BLUE/YELLOWに分けて行われた公式予選では中澤皓平/笠井杏樹が組んだTEAM KORS wifi NOJIMA with AGRASがトップ。それにアジアロードレース選手権AP250に参戦している井吉亜衣稀と清末直樹が組んだSNIPER Racing ARRC、福田たかお/中村龍之介が組んだTEAM TEC2 & YSSと続いた。決勝レースでは井吉/清末組、福田/中村組、豊原由祐/遠藤弘一組が序盤から激しいトップ争いを展開。トップグループを何度もトラブルが襲ったが、唯一トラブルに巻き込まれることなく、独走状態を築いた井吉/清末組が2位以下の全車を周回遅れにしてトップチェッカーを受けた。

もちろん、他のカテゴリーのレースも盛り上がった。第2戦では37台が参戦し、A・Bの2グループに分けて予選が行われたナショナルST600には今回はなんと49台という台数が集結。念願のフルコース大会であることに加え、今回は鈴鹿ST600R (Revival)が開催されなかったため、このカテゴリーに参戦するライダーも多かったようだ。また、インターJSB1000やインターST1000には鈴鹿8耐のテストを兼ねて参戦するライダーやチーム、インターST600には阿部恵斗、鈴木大空翔、渡邊一輝、鈴木悠大といった全日本ST600フル参戦ライダーたちも参戦するなど、注目を集めていた。

カワサキの249cc 4気筒スーパースポーツである「Ninja ZX-25R」を使ったワンメイクサーキットイベント「Nina Team Green Cup」が併催されたこともトピックだった。昨シーズンから本格始動したこのイベントはレース未経験のライダーでも気軽にモータースポーツの魅力に触れられることがコンセプト。エントリーした20名はモータースポーツの醍醐味を存分に楽しんでいた。この他、特別スポーツ走行が行われた13日(金)とレース初日の14日(土)にはMFJテクニカルアドバイザーである小澤源男氏によるライディング講習会が行われた。参加者はライディングテクニックやマシンセッティングに関することなど、実践的な内容に耳を傾けていた。

次戦は「ファンラン」と併催される6月4日(土)のシリーズ第4戦。CBR250R/CBR250RR Dream Cupクラスのみで開催となるが、是非注目していただきたい。



「Ninja Team Green Cup」が鈴鹿サンデーロードレースで併催されたのは今回が初めて。20名のライダーがサーキットならではの解放感、爽快感、疾走感を味わった

■ **インター／ナショナルJ-GP3／
HRC NSF250R Challenge (14日(土)開催)**

ポールポジションスタートの高平理智がホールショットをゲット。それに4番グリッドスタートの村田憲彦が続く。村田は高平をパスしてトップに立つと、その村田、仲村瑛冬、高平、大田隼人、金子寛、岡田陽大のオーダーでオープニングラップを終了。トップグループはその後もコーナーごとに順位を入れ替える激しいバトルを披露する。大田が2周目の1コーナーでトップに立つと、集団を抜け出すことに成功して単独走行に。マシントラブルを抱えた仲村に代わり、22番グリッドスタートから順位を上げた川瀬啓一郎が2番手グループに加わる。結局、後続に4秒338ものアドバンテージを築いた大田がトップチェッカーを受けると同時にインタークラスのウィナーに。総合3位の岡田がナショナルクラスを制した。



インターJ-GP3表彰式 (優勝:大田隼人、2位:村田憲彦、3位:川瀬啓一郎)



ナショナルJ-GP3表彰式 (優勝:岡田陽大、2位:高平理智、3位:松岡絢音)

■ナショナルST600(14日(土)開催)

4番グリッドスタートの遠藤晃慶が絶妙なクラッチミートを披露。2番グリッドスタートの三上真矢がスタートで出遅れるが、1コーナーまでに順位を回復してホールショットを奪う。その三上、ポールポジションスタートの塚原渓介、遠藤のオーダーでオープニングラップを帰ってくると、三上は徐々に後続を引き離して単独トップに。塚原、遠藤も単独2番手、単独3番手となる。その後方で渡辺維吹が4番手を走行。さらにその後方では末川扉と関口智大が5番手争いを展開する。5周目の1コーナー進入で渡辺が遠藤をパスして3番手に。渡辺と遠藤は表彰台の一角に立つべく、その後もテールtoノーズのバトルを展開するが、遠藤が8周目に転倒。さらにトップを独走していた三上がファイナルラップで転倒。塚原の優勝が決まった。



ナショナルST600表彰式 (優勝:塚原渓介、2位:渡辺維吹、3位:関口智大)

■インター-ST600

ポールポジションスタートの鈴木大空翔と2番グリッドスタートの阿部恵斗は公式予選でも2分14秒台をマーク。予選3位の成田彬人が2分18秒だけに、この2台の一騎打ちが予想される決勝レースとなった。グリッドのオーダー通りに1コーナーへ。鈴木と阿部がオープニングラップから早くも後続を引き離しにかかるが、ダンロップコーナーで転倒したマシンが2台あったことにより、赤旗が出されてレースは中断。リスタート後も鈴木が良いクラッチミートを披露してホールショットをゲット。阿部がそれに続く。鈴木と阿部が横並びの状態では130Rへ。鈴木、阿部のオーダーでリスタート後のオープニングラップを帰ってくると、2周目のヘアピンで阿部がトップに。ファイナルラップまで続いたバトルを制したのは阿部だった。



インター-ST600表彰式 (優勝:阿部恵斗、2位:鈴木大空翔、3位:堀井颯大)

■インターJSB1000

ポールポジションスタートの加藤高史が絶妙なクラッチミートを披露してホールショットをゲット。2番グリッドスタートの仲村優佑は集団に飲み込まれる。早くも逃げの体制に入った加藤は2番手以降にコンマ893のアドバンテージを築いてオープニングラップを終了。3番グリッドスタートの羽根巧、6番グリッドスタートの西村一之がそれに続く。JSB1000デビューの羽根が次第に加藤に接近。加藤をパスした羽根、加藤、スタートで出遅れた仲村のオーダーで2周目を終える。その3台がトップグループを形成。仲村は5周目のデグナーカーブで加藤をパスすると、同じ週の2輪専用シケインで羽根をもパスしてトップに立つ。一時的に独走状態となった仲村に加藤が接近。その2台のバトルを制した加藤がポールtoウィン飾った。



インターJSB1000表彰式 (優勝:加藤高史、2位:仲村優佑、3位:片平亮輔)

■インターST1000

インターJSB1000との混走レースとして行われるいつもとは違い、単独レースとして開催されたこのカテゴリー。ポールポジションスタートの中村修一郎が良いクラッチミートを披露してホールショットを奪う。3番グリッドスタートの吉廣光、2番グリッドスタートの森健祐がそれに続く。森が吉廣をパス。中村、森、吉廣のオーダーでオープニングラップを帰ってくると、2周目には中村が森以降を引き離しにかかる。森と吉廣はテールtoノーズの状態でも2番手グループを形成。次第に森、吉廣も単独2番手、単独3番手に。結局、中村が22秒855秒ものアドバンテージを築いて2戦連続でポールtoウィン。再びテールtoノーズの状態となった森と吉廣だが、吉廣が6周目に転倒。森が2位チェッカーを受けた。3位は可部谷雄矢だった。



インターST1000表彰式 (優勝:中村修一郎、2位:森健祐、3位:可部谷雄矢)

■ナショナルST1000(14日(土)開催)

良いクラッチミートを披露した3番グリッドスタートの吉原匡徳とポールポジションスタートの吉田愛乃助がサイドbyサイドの状態でも1コーナーへ。吉田がオープニングラップから後続を引き離しにかかる。吉田、吉原、2番グリッドスタートの池田寛之のオーダーでオープニングラップを終了。吉田は自身がマークしたファステストラップを周回ごとに更新しながら単独トップの座を盤石なものとする。吉原、池田も単独2番手、単独3番手に。中尾泰三をパスして4位に浮上した越智健仁が徐々に池田のテールに接近。9周目の1コーナーで池田がコースアウトしたことにより、越智は労せずして3位となる。後続に31秒123ものアドバンテージを築くことに成功した吉田がポールtoウィン。2位は吉原。越智が3位でチェッカーを受けた。



ナショナルST1000表彰式 (優勝:吉田愛乃助、2位:吉原匡徳、3位:越智健仁)

■JP250 4時間耐久ロードレース

ル・マン式により4時間におよぶレースがスタート。ポールポジションからスタートした中澤皓平／笠井杏樹組のマシンのエンジンに火が入らず、中澤は大きく順位を落とす。ホールショットを奪ったのは2番グリッドからスタートした井吉亜衣稀／清末直樹組の井吉。3番グリッドからスタートした福田たかお／中村龍之介組の中村、井吉、4番グリッドからスタートした豊原由拡／遠藤弘一組の豊原のオーダーでオープニングラップを帰ってくると、序盤からその3台がテールtoノーズの状態でもツブ争いを繰り返す。

スタートで大きく出遅れた中澤は6位まで順位を上げたが、6周目にスローダウン。マシンを止める。7周目になるとバックマーカーが出現。トップ3台は危なげない走りでもバックマーカーを処理し続ける。しかし、豊原がスローダウンしてマシンをストップ。これにより、トップグループは中村と井吉の一騎打ちに。さらに18周目のシケインで中村が転倒。井吉が単独トップとなる。

1時間ほどが経過する頃、井吉がルーティンのピットイン。ライダーチェンジした清末がコースに復帰する。暫定トップとなった南博之／小川晃広組の南もほどなくピットインして小川にライダーチェンジ。これにより清末が再びトップに立つ。

その後も順調にライダーチェンジを消化しながら走行を続けた井吉／清末組がトップチェッカーを受けると同時にインタークラスのウィナーに。総合2位の小野拓也／平松太陽組がナショナルクラスを制することとなった。



インターJP250表彰式

(優勝：井吉亜衣稀／清末直樹、2位：川添誠／吉澤隆、3位：小池信一郎／大田雅裕)



ナショナルJP250表彰式

(優勝：小野拓也／平松太陽、2位：南博之／小川晃広、3位：澤合柁／中川涼)

**Voice
of
Pick up
Riders**
-SUNDAY EDITION-
この日、キラリと光った
ライダーに一问一答

この日、キラリと光ったライダーに一问一答
「Voice of Pick up Rider -SUNDAY EDITION-」

鈴鹿ナショナルST1000クラスで優勝した

吉田 愛乃助 選手 (18歳)
(Takeishi Technical Racing / ホンダ CBR1000RR-R)



Q. 公式予選ではアタック1周目にその時点での2番手以降を2秒以上引き離す2分18秒351をマーク。そのタイムで公式予選トップになりました。

A. 赤旗で予選が中断し、再開後に一度コースインしましたが、タイヤを温めなかったですし、2分18秒台をマークしていたのは唯一だったのでそれ以上リスクを負う必要はないだろうと考え、アタックをやめました。2戦連続でポールポジションを獲得できて良かったです。

Q. 決勝レースでは後続を引き離し続けて2戦連続でポールtoウインを飾りましたね。

A. ホールショットを奪えませんでした、2コーナーでトップに立って独走状態を築くことができました。トップに立ってからは国際ライセンスの方たちと走っているのを意識し、速いタイムで周回することを目標に走りました。スタートで失敗したのは経験不足が原因です。冷静さが足りないと思うので、レース中でも練習中と同じように冷静に走れるようになりたいです。

Q 今シーズンの目標を教えてください。

A. ナショナルST600に参戦した昨年の第4戦ではトップ争いをしましたが、ファイナルラップの最終コーナーで転倒。最終戦では優勝しましたが、わずかにポイントが足らず、国際ライセンスに昇格できませんでした。今年はナショナルST1000で全戦全勝を目標にしています。また、コースレコードもマークできればと考えています。そして来シーズンこそは国際ライセンスに昇格したいです。